

最先端の
技術

Cutting-
edge
technology



先を見据えた
施設が多く
新たな学びが
生まれます。



最先端技術の活用・研究を 行う医療・研究施設が立地

鳥栖市には最先端技術の活用・研究を行う3つの施設があり、各機関と市は、学術の振興と地域社会への貢献を目的として「4者の包括的な連携・協力に関する覚書」を締結しています。

明るい未来がココから始まる、 最先端の技術が身近にあるまち。

鳥栖市にある3つの医療・研究施設では、日々治療や研究が進められており、その成果は、医学や材料科学、超微細加工など幅広い分野に応用が可能です。また、各施設では毎年、施設の一般公開を開催。最先端機器の見学や実験体験などを通して、未来を担う子どもたちの科学への興味関心の向上にも貢献しています。



国立研究開発法人 産業技術総合研究所(産総研)九州センター

昭和39(1964)年開設。当時の名称は「通商産業省工業技術院九州工業技術試験所」。

日本の産業や社会に役立つ技術の創出を目指す公的研究機関で、企業の製造現場における生産技術の高度化や維持管理の効率化および安全な社会を実現するために、新たなセンシング技術やセンサーネットワーク技術などの研究開発を進めています。



佐賀県立九州シンクロトロン光研究センター (愛称:SAGA-LS)

平成18(2006)年開設。

九州唯一のシンクロトロン光を利用する産学官の研究開発拠点。産学官共同研究や各種研究支援などにより、地域産業の研究開発や新製品・新技術開発に向けた取り組みを促進し、成果を新産業の創出や地域産業の高度化に生かすことを目的としています。



九州国際重粒子線がん治療センター (愛称:サガハイマツト)

平成25(2013)年開設。

九州初となる重粒子線によるがん治療施設。手術をせずにがんの治療ができるため、患者に負担が少ないやさしい治療法であり、がん治療の選択肢を広げる最先端の医療施設です。また、重粒子線がん治療の臨床研究も行われています。